

＝岐阜高専＝

「海外インターンシップ報告会」を開催

岐阜高専は、高専祭公開日の10月26日に同校多目的ホールにおいて「平成26年度海外インターンシップ報告会」を開催した。

本校は、教育後援会寄付金により設立した国際交流基金の援助により、平成15年度から専攻科学生を対象にグローバルな視野を持ち活躍できる技術者を育成するため海外インターンシップを実施している。

平成23年度までは、地元企業㈱TYKの支援により現地法人での企業インターンシップを実施してきたが、平成24年度より5大学と包括交流協定等の締結を進め、アカデミックインターンシップ（短期留学派遣）の充実を推進している。今年度は、JASSOのサポートを得て、1企業3大学に合計6名の実習生を送り出した。

報告会では、初めに和田清国際交流室長より本会開催の主旨説明があり、続いて、英国ダーラム・TYK Ltd.、インドネシア・バンドン工科大学、マレーシア工科大学、米国・アイオワ大学で実習した5名の専攻科学生が、インターンシップにおけるスケジュール、課題設定と考察、異文化での生活・物価、費用などについてプレゼン発表を行った。

「今までにない体験ができ、自分を成長させるチャンスである」、「授業への積極的な取り組みや自主性を持って行動することの重要性を学んだ」などの報告に招待された教育後援会の役員、保護者、一般の来校者、教職員及び海外インターンシップに関心のある在校生等が、来年度への実施・参加に向けて熱心に耳を傾けていた。

最後に和田国際交流室長が、本海外インターンシップは学生をステップアップさせる有意義なものであり、今後の活動継続の支援をお願いし、閉会した。



マレーシア工科大学における実習を報告する専攻科学生